



日耳鼻医学会FAXニュース NO 171

平成22年12月9日 発行 (特)日本耳鼻咽喉科医学会 E-mail jimuj@jenti.or.jp HP http://www.jenti.or.jp
〒104-0031 東京都中央区京橋2-11-8 全医協連会館5F FAX 03-5524-5228 TEL 03-5524-5230

医学会協議会開催される 11月28日医学会事務所平成22年度医学会協議会が17都県(含代理)が参加して開かれた。第35回臨床家フォーラム、第36回臨床家フォーラム進捗状況、厚生労働省保険局医療課訪問(10月28日、理事長、前理事長、副理事長)、嚥下障害に対する歯科医師会の取り組みの現状等の報告の後、平成22年度診療報酬改定の影響調査報告、公立学校レセプト調査中間報告があり、討議に入った。出席者から嚥下障害への耳鼻科医の認識の不足や現状にたいする危機意識の不足が多く指摘された。詳細は会誌「かがみ」掲載予定。

討議の後、環境省環境保健部長・前厚労省保険局医療課長の佐藤敏信先生の講演「平成22年度診療報酬改定が目指したもの」があり、その中で、国民医療費36兆円の約1/4の9兆円を国庫が賄っていること、医療費の中で調剤医療費が歯科医療費の2倍、防衛予算を上回る5兆円もあること、今回の改定は病院をより厚くとの政府の指示があったこと、社会医療診療行為別調査、医療経済実態調査、そして外保連の資料などを参考にしたこと、改定に初めて付帯事項がついたこと、今後の課題として診療報酬体系の簡素化、勤務医の処遇改善、とりわけ財源の確保があることなどが語られた。

協議会の後、講師も参加されての懇親会が開かれた。

22年度診療報酬改定影響調査報告

11月15日までに東京82、岐阜24、鹿児島22など38都道府県より327の回答が得られた。FAX送信数は1497で回収率は21.8%であった。これについて集計分析した結果が11月28日の医学会協議会で報告された。

以下は問2～問11の回答の割合

- * 1件当たり平均点数 増加16.9%、減少56.5%、不変26.5%
- * 受診患者数 増加28.3%、減少49.7%、不変22.0%
- * 8・9月の受診患者数 増加17.3%、減少49.4%、激減12.6%
- * 平均日数 増加7.4%、不変56.5%、減少36.1%
- * 標準純音聴検回数 増加18.7%、不変53.2%、減少28.1%
- * 簡易聴力検査回数 増加21.8%、不変56.7%、減少21.5%
- * 内視鏡検査回数 増加23.7%、不変52.6%、減少23.7%
- * 域医療貢献加算 算定せず86.1%、算定8.9%、検討5.0%
- * 今後の算定について 今後も算定12.9%、算定検討6.6%
算定中止を検討0.9%、今後も算定しない79.6%
- * 嚥下内視鏡検査 算定せず87.1%、算定12.9%
- * 今回の改定で耳鼻科への影響
良くなった0.6%、悪化した75.2%、不変13.2%、不明11.0%

4月から9月までのレセコンでのデータの昨年比では1件当たりの平均点数は0.9ポイント(p)のダウンであったが、来院患者総数1.5p、請求総件数2.2p、請求総点数1.2p、検査総件数1.1p、それぞれ僅かではあるがアップ、検査請求総点数は変化なしで、耳鼻科にとって検査点数の引き下げによる大きな影響はなかったのではないかと考えられる。

今回の改定への意見、また次回改定への要望など多くの切実な意見が寄せられた。詳細は会誌「かがみ」に掲載予定。ご協力頂いた皆様に厚くお礼申し上げます。

老人性難聴の仕組み解明

東大など

東大の田之倉優教授らの研究チームと米ウイスコンシン大学の研究チームはマウスの実験で、老人性難聴の仕組みの一端を明らかにした。摂取カロリーと細胞の寿命にかかわる遺伝子の働きが関係していた。カロリーを制限するとこの

遺伝子の働きが活発になり、病気に繋がる細胞の損傷を防げるといふ。

老人性難聴は加齢と共に音の感知に関連した細胞が死滅するのが原因。そこで細胞の寿命に関わるSirt3という遺伝子に注目した。この遺伝子を持たないようにしたマウスをカロリー制限して人間の中年に相当する年齢まで育てると難聴になった。遺伝子操作をしていないマウスもカロリー制限をしなると多くが難聴になったが、制限をすれば難聴にならなかったという。難聴マウスの内耳の細胞は活性酸素によって傷害を受けていた。Sirt3遺伝子の働きが弱まるために発生する活性酸素が細胞を傷つけたと考えられるという。遺伝子の働きを強める薬剤が見つければ治療に使える可能性がある。(11月19日 日経新聞)

突発性難聴 細胞再生で改善 半数以上に効果

京大病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科の伊藤壽一教授らのチームは、突発性難聴の患者に聴覚細胞を再生する治療を行い、半数以上で聴力が改善されたと発表した。

突発性難聴の治療は、ステロイドの全身投与が行われているが、約2割の患者では全く効果がみられず、副作用に苦しむケースが多いという。

伊藤教授らは、聴覚細胞が集まる、内耳の蝸牛の膜に、細胞の成長にかかわる蛋白質をしみ込ませたゼリー状のゲルをくっつける治療法を開発。2007年から、発症後29日以内でステロイドの効かない123-72歳の男女25人を治療した。その結果、治療から24週後に14人の聴力が改善し、うち1人は、ほとんど聞こえなかったのがほぼ正常に聞こえるまで回復した。重い副作用はなかった。(12月2日 読売新聞)

「ジェネリック医薬品に切り替えた場合の薬代の自己負担の軽減可能額に関するお知らせ」を提供

全国健康保険協会東京支部

22年11月下旬より、平成22年8月に健康保険で薬を処方された35歳以上の加入者のうち、ジェネリック医薬品に切り替えた場合の薬代の自己負担額がどの程度軽減されるかを記された通知書を送る予定。また「ジェネリック医薬品希望シール」も同封する予定。

これに対して日耳鼻医学会石山理事長は、記された金額が医療機関の収益になるかのような誤解を与えかねず、医者と患者の信頼関係にひびがはいる、両者の間に不信感が生まれかねないとの危惧を表した。



経口用セフェム系製剤 【薬価基準収載】

日本薬局方 セフジニルカプセル、セフジニル細粒

セフゾン® 細粒小児用10%
カプセル 50mg/100mg

CFDN Cefzon®

処方せん医薬品(注)第一医師等の処方せんにより使用する。【資料請求先】

■「効能・効果」「用法・用量」「禁忌・原則禁忌を含む使用上の注意」等につきましては、製品添付文書をご参照ください。

製造販売 **アステラス製薬株式会社**
東京都板橋区蓮根3-17-1
【資料請求先】本社/東京都中央区日本橋本町2-3-11